

## 必修科目：小児科

### 【研修目標】

#### 1 到達目標（G I O : General Instructional Objective）

日常遭遇する頻度の高い小児疾患に対する初期診療能力を身につけるために、成人と異なる小児の特殊性を理解し、小児の診療を適切に行うことのできる基礎的知識・技能・態度を修得する。

#### 2 行動目標（S B O s : Specific Behavior Objectives）

##### （1）医療面接

- ①保護者から診療に必要な情報を的確に聴取することができる。
- ②小児ことに乳幼児に不安を与えないように接することができる。
- ③保護者に児の状態・治療計画を適切に説明することができる。

##### （2）基本的診察

- ④全身の診察を系統的に行うことができる。
- ⑤身体発育・精神運動発達レベルを発育曲線、発達検査表を使って把握することができる。

##### （3）基本的手技

- ⑥乳幼児の採血、点滴を適切に行なうことができる。

##### （4）検査

- ⑦血液、生化学、尿検査、感染症迅速検査の結果を適切に解釈することができる。
- ⑧小児胸部・腹部X線写真の基本的な読影ができる。

##### （5）診断・治療

- ⑨発熱性疾患の鑑別診断ができる。
- ⑩発疹性疾患の鑑別診断ができる。
- ⑪脱水症に対する経口補水指導・経静脈輸液療法ができる。
- ⑫呼吸障害の診断・治療ができる。
- ⑬けいれんの診断・治療ができる。
- ⑭川崎病の診断・治療ができる。
- ⑮小児外科手術の適応が判断・搬送できる。

##### （6）救急処置

- ⑯小児の基本的心肺蘇生処置ができる。（新生児の蘇生は分娩機会があれば習得）

##### （7）小児保健

- ⑰予防接種のスケジュール、副反応を理解し、適切に接種できる。
- ⑱母子手帳の記載内容及び健康乳児の月齢毎の発育・発達の変化を理解する。

(8) 投薬

- ⑲小児の年齢別の薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗菌薬を含む）を処方できる。
- ⑳年齢・疾患等に応じて、輸液の種類、量を決めることができる。
- ㉑検査鎮静のために、適切な薬剤の選択と投与、モニタリングができる。

(9) カンファレンス・英論文抄読会

- ㉒カンファレンス・抄読会において、担当患者・与えられた論文のプレゼンテーションを適切に行うことができる。

(10) 感染制御チーム(ICT)病棟ラウンド

感染制御チーム(ICT)が、多職種で構成され、病院全体の感染管理及び抗菌薬の使用状況を把握し、院内感染予防活動を行っていることを理解する。

## 【研修方略】 (LS)

<研修場所>

大阪労災病院

<研修期間>

1ヵ月間（4週以上）とする

<指導医条件>

1 指導医資格

・5年以上の小児科臨床経験を有する日本小児科学会認定小児科専門医である。

2 指導医一人に対する研修医数

・原則1人とする。

3 研修責任者（指導責任者）

小児科部長：岡本 奈美

### (3) 研修方法

	行動目標	方法	場所	担当者
1	①～②①	見学、実習	病棟 小児科外来・新生児室	指導スタッフ全員
2	①～②①	見学、実習	病棟 小児科外来・新生児室	小児科医師
3	④⑤	講義	小児科外来・小児科医局	川村尚久部長
4	②②	グループ討議	カンファレンスルーム・小児科医局	指導スタッフ全員

ICT病棟ラウンド 全病棟 川村尚久第二部長・ICTスタッフ

#### ① 入院患者研修

研修医は、決められた指導医のもとで6階中病棟小児科入院患者の受持医となる。受持ち患者の面接、検査、診察を行い、カルテに記録する。受持ち患者の検査結果、診察所見を指導医に報告し、患者本人または保護者に病状、検査結果、治療方針、今後の予定を説明する。記載したカルテを指導医に見せ、チェックを受ける。受持ち患者が退院後は、速やかに退院サマリーを作成し、指導医のチェックを受ける。

#### ② 外来研修

小児科ローテート中に8日（1.6週）以上を、指導医の監督指導のもと並行研修として一般外来診療を担当する。

#### ③ 小児基本的手技研修

小児科病棟において、指導医の指導の下、担当患者の採血や点滴確保を行い、手技を取得する。

#### ④ 予防接種研修(担当：川村尚久部長)

予防接種外来を見学し、指導医の監督のもと予防接種の接種方法について実習する。

#### ⑤ 小児基本診察講義

研修期間中1回、講義を受ける（担当：川村尚久部長）。

#### ⑥ 症例発表

研修期間に月1回、小児科勉強会において、研修期間中もっとも印象深かった症例について、指導医の指導のもと文献的考察とともに症例報告を行いスタッフとディスカッションを行う。

#### ⑦ 英論文抄読会

研修期間に毎週月曜日始業前に、小児科医局において、指導医より与えられた英論文について要旨、結論、考案について発表しスタッフとディスカッションを行う。

《週間スケジュール》

	月	火	水	木	金
午前	英論文抄読会 病棟回診 外来研修	病棟回診 循環器外来 研修	病棟回診 外来研修	病棟回診 外来研修	病棟回診 外来研修
午後	乳幼児健診 予防接種	乳幼児健診 ICT病棟ラ ウンド	内分泌・血 液・心身症外 来研修 予防接種	アレルギー外来 研修 海外渡航予防接 種 カンファレンス	腹部超音波 予防接種 カンファレ ンス
17:00	小児科当直		小児科当直 (~24:00)		

【研修評価】

- (1) 研修医は臨床研修評価表に毎月達成状況のPG-EPOCにて自己評価する。
- (2) 指導医も臨床研修評価表に毎月達成状況をPG-EPOCにて評価する。
- (3) 研修医は退院時に受け持ち症例のレポートを作成し指導医に提出する。この時指導医は手技、診断能力をPG-EPOCにて評価する。
- (4) 研修医は研修終了時に臨床研修評価表に自己評価し、指導医も同様に小児科研修終了の最終判定を下す。更に研修医はプログラムの評価を行いその結果は責任者、指導医、診療科にフィードバックされる。

＜総括的評価＞

研修医は、研修期間終了時まで以上に上記の外科において経験すべき疾患、病態、患者背景について自己の研修到達度を PG-EPOC に入力する。指導医または指導責任者は、当該研修期間終了時に一般目標、行動目標の達成状況を PG-EPOC に入力する。評価基準に到達していない研修医は別途、担当チューター指導医が面談にて指導を行い文書として記録を残す。